

持続可能な機関リポジトリに向けて

金沢大学学術情報リポジトリKURAの目指す方向

第8回データベースフォーラム／金沢大学データベース研究会
(2009年3月19日, 金沢大学総合メディア基盤センター)

金沢大学情報部情報企画課
情報企画係長 橋 洋平

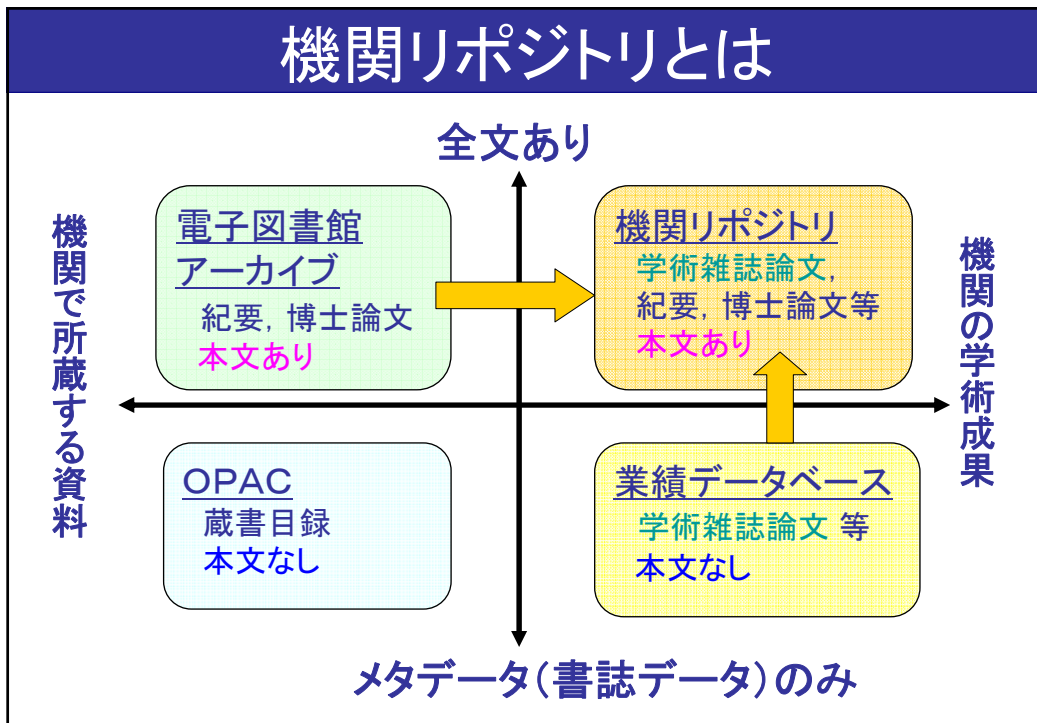


発表の目的・内容

- 金沢大学学術情報リポジトリ(KURA)を事例として、機関リポジトリ(IR)を持続的に運用するための条件について考察すること
- 前提として、KURAの特徴・現状を説明
- 今年度行ったカスタマイズ内容と運用方法についての紹介
- 今後の展望

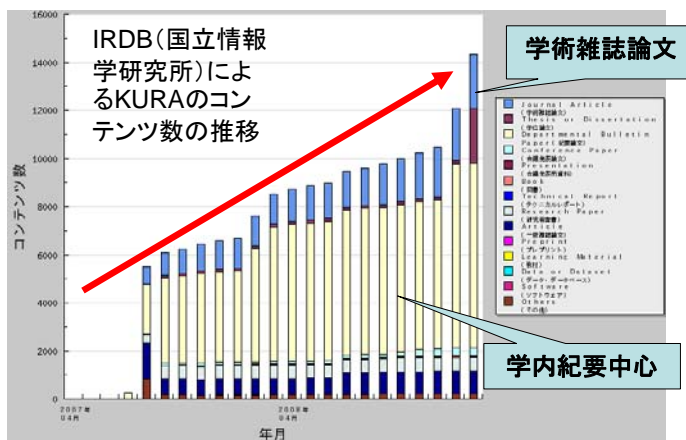
→各大学でIRを維持するための条件の考察

機関リポジトリとは



KURAの特徴

- あまり特徴はない。地味である。
- しかし、登録件数は着実に増加している。



KURAの問題点

1. 業務がマニュアル化されていない。
2. 登録の効果がユーザーにフィードバックされていない。
3. 研究過程に完全には組み込まれていない。

IRを持続するためには？

- 一般論として、利用者からの支持の必要性
- 大学がIRを運営することについて、利用者、特に教員から理解・支持されている必要がある。
 - トップダウンで理解されているはず...
しかし、本当に理解されている？
 - 個別に反対意見が... 例えば...

IRのどこが理解されにくいか？【1】

【Q1】IRでなくても電子ジャーナルで十分では？

→【A】読めない人も読めるようになります。

【Q2】優先すべきコンテンツがあるのでは？

→【A】紀要・博士論文などの大学オリジナル・コンテンツは登録完了。次は学術雑誌論文へ

【Q3】労力がかかり過ぎでは？

→【A】今の時代、業績データベースへの登録は必須。データ流用すれば、労力はかからない。

IRのどこか理解されにくいか？(2)

【Q4】なぜ“著者最終稿”にこだわるのか？

= 最終稿の登録は避けたい / 残っていない

→【A】可能な分だけで結構です。ただし、「読めない人も読めるようになる」というのは大きなメリット

主に学術雑誌のオープンアクセスの部分についての反対・無理解が多い。

→段階を追って、IRについての理解を深めていくべきではないか？

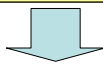
IR進化の3段階とKURAの現状

【段階1】 学内刊行物のプラットフォームとしてのIR
 紀要, 科研費, 博士論文...IRならではのコンテンツ



この辺が当面の課題

【段階2】 業績DBのオプションとしてのIR
 業績DBにもう一手間かけたもの



ただし、まだ浸透していない。要制度化

【段階3】 著者の権利の行使の道具としてのIR
 オープンアクセスの支援。IR本来の目的。
 しかし、なかなか理解を得られない部分でもある。

KURAは、(結果として)この順に進んでいる。

KURA今年度の事業(1)

学内刊行物のプラットフォームへ

金沢大学の定期刊行物(試行版)

金沢大学学術情報リポジトリKURAに登録されている学術発行の定期刊行物の一覧です。表紙の画像または誌名をクリックするとKURAの中の各種誌の掲載リストのページになります。

- 各部署のサイトで公開済のものもKURAに重複登録しているものもあります。
- 登録許諾の得られた論文・記事のみ登録していますので、一部全文が非公開の場合もあります。
- 論文等の記事のみを掲載しています。

人間社会 | 理工 | 医療保健/医/がん研 | センター等 | 広域・連携等 | 現在未実行

人間社会学系・研究科 / 人間社会環境研究科

文学部編纂 文学部編纂	文学部編纂 文学部編纂	文学部編纂 文学部編纂	文学部編纂 文学部編纂	文学部編纂 文学部編纂
金沢大学教育学部編纂 行動科学・論文集	金沢大学教育学部編纂 心理学・発達学・保健学	金沢大学教育学部編纂 言語・文学類	金沢大学教育学部編纂 教育科学編纂	金沢大学教育学部編纂 教育科学編纂
金沢大学教育学部編纂 人間・社会科学編纂	人間社会環境研究	金沢大学	金沢大学教育学部編纂 教育科学編纂	Current 解説(2)
金沢大学古学紀要 金沢古学	金沢大学文学部地理	金沢大学国際研究	KURA	

ポータル化と
電子ジャーナルの見栄えの実現

Powered by KURA | Publication List | Thesis List

金沢大学文学部地理学報告

発行: 金沢大学文学部地理学研究室

[Current Issue](#) [Back Issues](#)

第10号 (2002-03)

浅間火山鬼押出溶岩流の噴火に伴う全岩化学組成変化
井上, 素子.
p.17-24

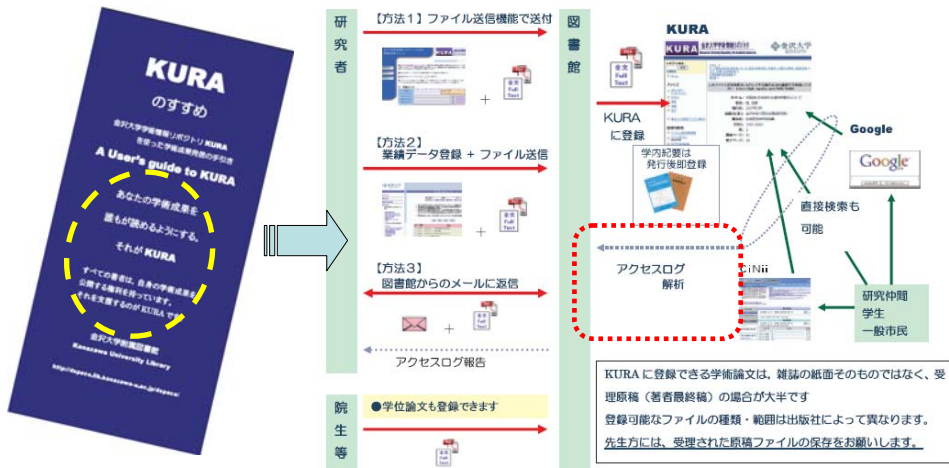
障害をもつ高齢者の生活継続のための環境
熊田, 紀子.
p.61-66

矢作川水系における河川水利秩序と水利形態の変化
伊藤, 達也.
p.1-16

西アフリカにおける中小都市研究について
遠城, 明雄.
p.37-46

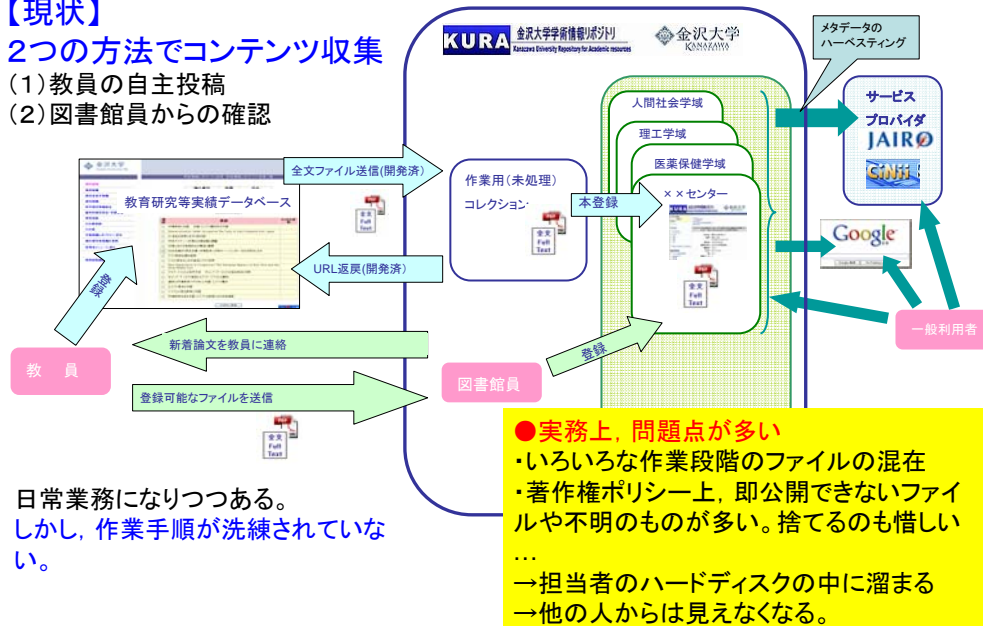
KURA今年度の事業(2) 著者の権利の支援

リーフレットの作成
統計をフィードバックするツールの作成 = 有用性のアピール

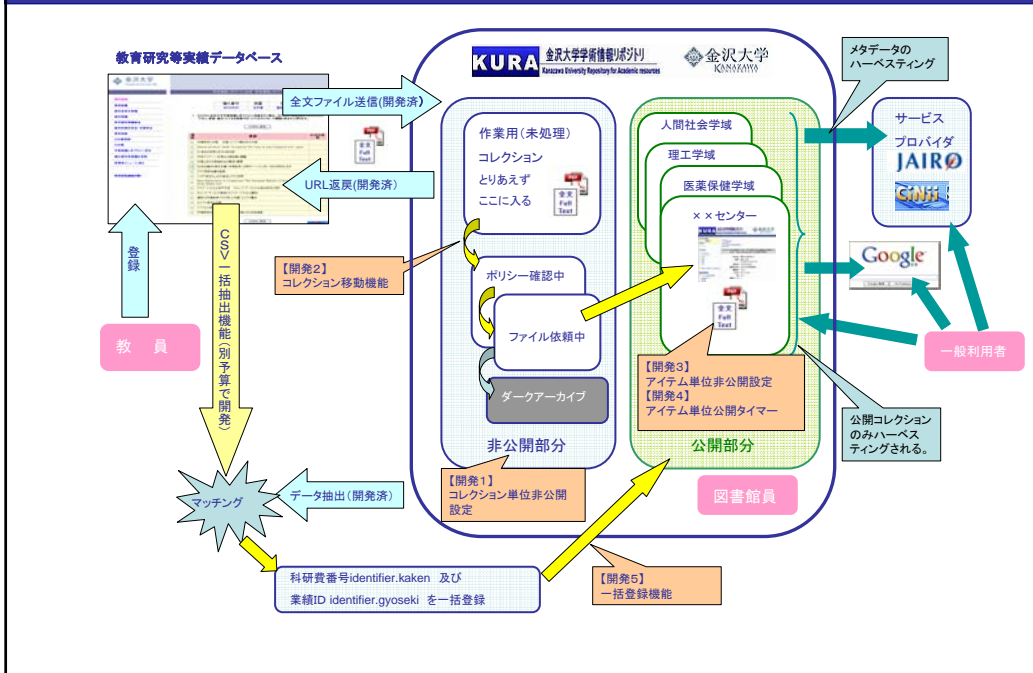


KURA今年度の事業(3) 業績DBのオプションとしてのIRへ(1)

【現状】
2つの方法でコンテンツ収集
(1) 教員の自主投稿
(2) 図書館員からの確認



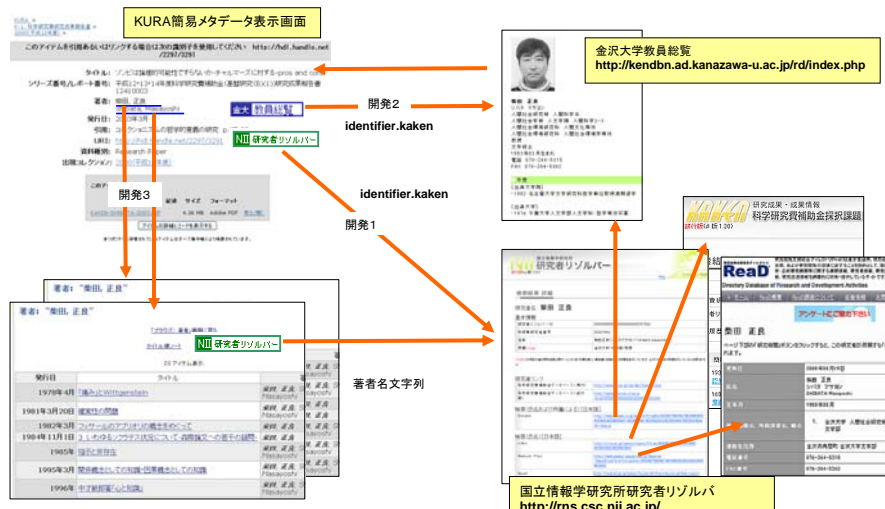
KURA今年度の事業(3) 業績DBのオプションとしてのIRへ(2)

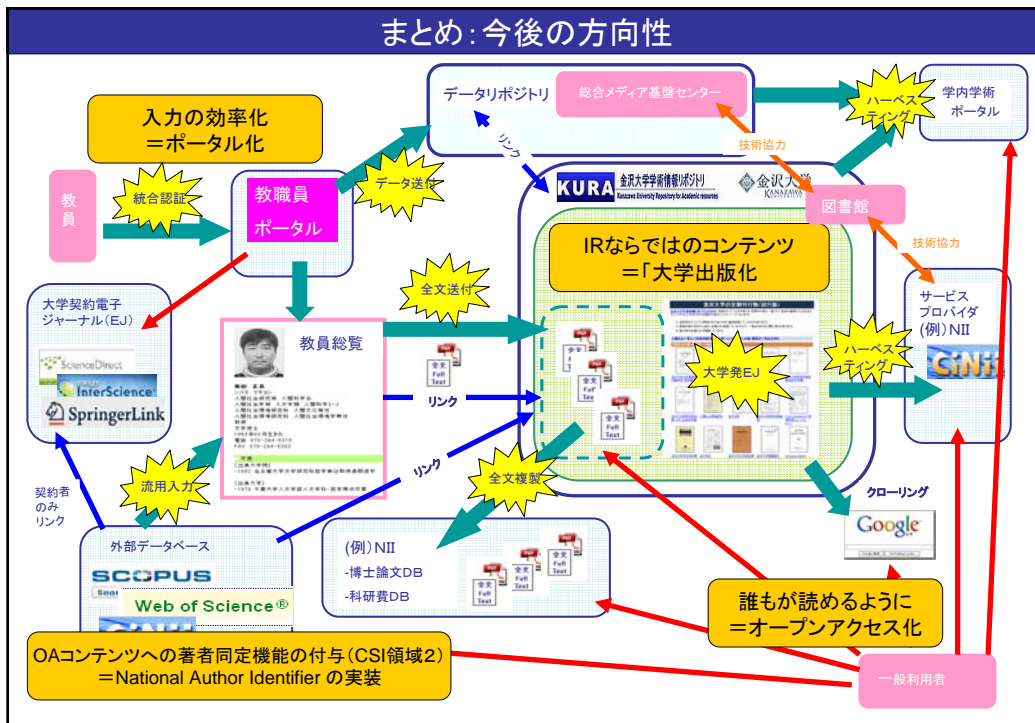


KURA今年度の事業(3) 業績DBのオプションとしてのIRへ(3)

- 【開発1】「研究者リゾルバ」を利用した著者典拠機能
- 【開発2】「各大学教員総覧画面」を利用した著者典拠機能
- 【開発3】付随するリンク

条件: 著者同定キーとして identifier.kaken に 科研費番号が入力済





まとめ: 今後の方向性

ご清聴ありがとうございました。